シンポジウム

新潟県と周辺の人類学的民族学的特徴

Symposium

Anthropological and Archaeological Peculiarities
of Niigata Prefecture.

1. 新潟県における考古学研究の
現 状 と 課 題

法政大学文学部
中 川 成 夫

1. Recent Advances of Archaeological Findings in Niigata Pref.
Naruo Nakagawa,
Hosei Univ., School of Literature.

新潟県における考古学研究は戦後長足な進歩をとげた。その成果と現状とは配布資料の一部を記しておいた。本県の考古学調査は公共団体の主催で行われる例が多く、また被調査地域は中越・上越地方が多い。時代の順をおつて説明すると、日本最古の無土器時代の遺跡・遺物の発見例は本県でも次第に増加してきたが、洞窟遺跡の発見例がないので、今後その方面への努力が必要である。最近発見の佐渡の前期旧石器は種々の点から確実性が乏しいので今後の慎重な調査が期待される。

縄文時代遺跡は本県で最も数の多く、1000カ所をこえる。地域的にみると、阿賀野川以北には東北的な色彩の濃い遺物、信濃川沿岸、および上越地方は中部山岳地方に似ており、佐渡の遺物は北陸的である。このことが形質人類学的な結果と類似するか否かには強い関心をもたれる。この時代の遺物の中に、本県

に原産地のある硬玉製品が認められる。

弥生時代の遺跡の数は乏しい。古いのは中期にさかのぼるが、下越地方に多い。特異な遺物として佐渡の細形管玉がある。この製作工程・分布の問題は今後なお研究さるべきであろう。

古墳時代の古墳分布は魚野川、荒川の流域、および弥彦山麓、佐渡真野湾沿岸に総計 500 基近くあるが、大和勢力伸張の指標である。前方後円墳はわずか 3 基であり、6 世紀初頭ごろのものである。学術的調査例の増加が望ましい。また、佐渡に古墳が少ないのは、経済発展の地理的基盤が弱かつたのも一因と考えられる。

奈良時代以降で問題となるのは、古代中世仏教伝播とその遺構の調査であるが、修験道・山岳信仰遺構の調査は、ミイラ〜郎身仏信仰と併考して興味ある課題といえよう。

I 主要遺跡調査報告書(戦後)

時 代	著 者	書 名	発 行 所	発行年	備 考
無 土 器	本間嘉晴他	佐渡上長木発見の前期旧石器	佐渡博物館報	37	佐 渡
	芹沢長介他	神山	津南町教委	34	中 魚
	中村孝三郎他	貝坂遺跡	長岡市立博	34	〃
	芹沢長介	荒屋遺跡における細石刃文化と彫刻刀	第4紀研究	34	北 魚
縄 文 早 期 前 期 〃 中 期 〃 〃 〃 〃 〃 後 期 〃 晩 期	中村孝三郎	小瀬ヶ沢洞窟	長岡市立博	35	東 蒲
	八幡一郎	刈羽貝塚	北方博	33	刈 羽
	寺村光晴他	鍋屋町遺跡	柿崎町教委	35	中 頸
	〃	徳昌寺遺跡	与板町教委	36	三 島
	小出義治他	栃倉	栃尾市教委	36	栃尾市
	椎名仙卓他	大平遺跡	小千谷市教委	33	小千谷市
	中川成夫他	小坂遺跡	十日町市教委	36	十日町市
	中村孝三郎	馬高	長岡市立博	33	長岡市
	〃	三仏生	〃	32	小千谷市
	中川成夫他	顕聖寺遺跡	浦川原村教委	34	東 頸
彌 生	大場磐雄他	千種	県 教 委	28	佐 渡
	真島衛他	越後六地山遺跡	本 人 社	35	西 蒲
	駒井和愛他	斐太	慶 友 社	37	新 井 市
古 墳	中川成夫他	新潟県頸城古墳群の研究	立 教 大	36	新 井 市
	上原甲子郎	葛蒲塚	巻 町	36	西 蒲
古 代・中 世	平野 団三	越後国分寺国分尼寺の研究	直江津市教委	35	直江津市
	中川成夫他	新津七本松窯址調査報告	北 方 博	31	新 津 市
	〃	北蒲原郡における二窯址の調査	〃	37	北 蒲
	〃	華報寺中世墓址群の調査	立 教 大	34	〃
県によるもの	県 教 委	史跡名勝天然記念物調査報告	1~12	5~18	戦 前
		県文化財調査報告	1~ 8	28~36	
		県文化財年報	1~ 5	28~37	
		重要文化財修理工事報告書			
		考古遺跡要覧	I II	34~36	

II 地域研究・特殊研究文献抄

時 代	著 者	書 名	掲 載 誌	発行年	備 考
縄 文~彌生	上原甲子郎	彌彦角田周辺古文化遺跡概観	県 年 報	28	
縄 文~中世	本間嘉晴他	小木半島周辺の考古学的調査	〃	33	
無土器~中世	中川成夫他	妻有地方の考古学的調査	〃	〃	
縄 文	中村孝三郎	中越地方の古代遺跡の遺物	長 岡 市 博	31	
縄 文~中世	佐渡高校	粟島調査報告	獅子ヶ城	34	
	寺村光晴	越後の先史文化	鍋屋町遺跡	35	

中村孝三郎	越後の石器	長岡博報	36
中川成夫他	佐渡における考古学上の諸問題	人類科学	36
ク	佐渡における彌生文化と古墳文化	ク	37
佐渡博	佐渡古代遺跡概観	佐渡博	33
中川成夫	雪の考古学	郷土の新井	36

Ⅲ 文献資料・地誌

著 者	書 名			
高橋義彦	越佐史料 全6巻		大 13	
丸山元純	越後名歩 全30巻			
小田島充武	越後野志			
鈴木牧之	北越雪譜	岩波文庫		
花見朔己校	新篇会津風土記 第5冊	大日本地誌大系	8	
田中葵園	佐渡志			
橘法老	河崎村編年志	河崎公民館	34	

Ⅳ 研究機関・発行誌など

名 称	所 在	発 行 誌	研 究 者
新大医学部第1解剖学教室	新潟市旭町	人類学輯報	小片保・池田次郎
北方文化博物館	中蒲原郡横越村	研究報告・調査報告	
長岡市立科学博物館	長岡市悠久山	ク 館報	中村孝三郎
佐渡博物館	佐渡郡佐和田町	ク 〃	本間嘉晴・椎名仙卓
相川郷土博物館	ク 相川町	館 報	(森三郎)
新潟県人文研究会	県教育庁社会教育課	越佐研究	(宮栄二)
上越郷土研究会	高田市立図書館	頸城文化	(中村幸一)
佐渡史学会	佐渡博物館	佐渡史学	椎名仙卓
中魚・十日町文化財協議会	十日町市教委	天神ばやし	(上村政基)
新発田市編集委員会	新発田市教委	新発田郷土誌	(波多野伝八郎)
新井郷土研究	新井市教委	郷土の新井	(金子以策)
高田市文化財調査委員会	高田市教委	調査報告	(池田嘉一)

2. 新潟県人の体質

新潟大学医学部解剖学教室

池田 二郎

2. Physical Constitution of Persons Born in Nigata Pref.

Jiro Ikeda,

Dept. of Anatomy, Niigata Univ., School of Med.

新潟県は越後と佐渡とに分けられる。越後人、佐渡人の特性を明らかにするために、それぞれの地域差を調べる必要がある。

越後では生体測定値以外には人類学上の調査が行われていないので、生体測定値だけについて比較する。資料の関係上、北部、中部、南東部、南西部に分けて、まず身長をくらべると、中部が最大で、北部が最も小さい。胸囲では北部が大きいので、北部は短身視丈、中部は長身で細い体格をもつ。これは中部の資料が年齢が若いこと、学生が多いこと、新潟、長岡などの都市で調べられたことなどと関係する。次に頭部では、頭長に各地域間に差がないが、頭幅は北部でやや小さい。その他、顔部計測値などを総合すれば、中部と南西部は近いが、それらと北部はやや違っている。

佐渡を大佐渡（北部）、国仲平野の東（東部）と西（西部）、小佐渡の東（南東部）と西（南西部）の5地区に分けて比較する。血液型では南東部はOが少なく、Aが多い点で東部、北部と違っている。指紋ではWが少なく、Uが多い北部が他の4地区、特に南東部と差を示す。掌紋の主線Dの終末を Cummins-Midlo の3型に分けると、7型は北部に多く、南西部に少なく、11型ではこの逆である。従って11型と7型の比では南西部が最大で、南東部がこれに次ぎ、北部が最小である。眼瞼の一重瞼と二重瞼の出現頻度は、二重瞼が東部で多く、南部の2地区で少い傾向があ

る。耳垂の形を分離型と密着型に分けると、密着型は北部、東部で多く、南部で少ない。頭髪毛渦の巻き方では、東部が南部2地区、北部より左巻きが多い。色盲の出現率では南部の2地区は他の3地区の約2倍の出現頻度を示している。生体測定値から体格を比較すれば、北部、南東部は短身で頑丈な、西部、南西部は高身長でやや細いといえるが、これには職業などが関係しているようである。頭長、頭幅とその示数では、西部と東部、南東部と南西部は近似しており、この2群と北部は丁度三角形をなして、短頭の北部と、中頭の南部2地区が対照的であり、東部と西部はその中間に属す。以上の特長から佐渡では北部と南部とに明瞭な地域差が認められ、東部と西部はその中間にあつて、ある形質では北部に、他の場合は南部に近い。

次に、佐渡人を越後人および裏日本各地方と比較する。血液型では佐渡は越後、山形、富山、石川など、羽越、北陸地方人と一致する。指紋では北部を除く4地区は越後を含む裏日本各地方人と一致するが、Wが少ない北部に似ているのは越後栗島、福島県檜枝岐、富山県氷見だけである。掌紋の Cummins-Midlo の3型では、佐渡の南東部、西部、東部は日本人平均、北陸、東北、関東各地方人の平均値や北陸の多くの地方型に近く、11型が多い南西部は山陰地方に、7型が多い北部は隠岐に似ている。頭長、頭幅、その示数では、佐渡人は頭長 189~191mm、頭幅 153.5~

156mm の範囲内にある。この範囲内に入る地方は秋田県花輪、山形県飛鳥、富山県五ヶ山郷、石川県（能登）柳田、西海、河井だけである。次いで、これに近い地方としては秋田県船川湊、山形県海岸部、新潟県北部海岸部と栗島、能登などがある。越後では北部海岸部以外はこれより頭長、頭幅がともに小さく、富山、石川など北陸地方人と一致する。佐渡人の中では、北部が越後人とはつきり違っており、南部は越後北部、山形県南部の海岸地方人に似ている。このように頭型が近似する地方型を囲むと、奥能登、佐渡北部、西部、東部、飛鳥、秋田県花輪をつつむ圏がつくられ、その外側に奥能登、佐渡、越後北部の海岸部、山形県海岸部、飛鳥、秋田県の大部分をとりまく圏がつくられ、更にその外側に越後の大部分から富山、石川（加賀）に連なる北陸地方型が存在する。

これらの関係を歴史的に考慮する場合、古代の人骨が必要となるが、新潟ではその発見例は少なく、特に計測が可能で他の資料と比較できるのは佐渡三宮貝塚（縄文後期）の男性 1 体と、越後東蒲原郡室谷洞窟（縄文前期）の女性 1 体だけである。三宮貝塚人骨、佐渡現代人骨を越後現代人骨と比較すれば、ともに差がないが、現代人より三宮人骨の差がやや大きい。しかし、三宮人骨は 1 例にすぎない

いで、この成績を重視することはできない。

最後に越後人、佐渡人が日本人の中でどのような位置を占めるかを頭長、頭幅とその示数でみると、越後人は日本人としては頭長が大きく頭幅が小さい中頭群で、東北、北陸、山陰地方人と一致する。これに対して、佐渡人、特に南部の 2 地区を除く地域は、日本人として頭長、頭幅ともに大きい短頭群であつて、それに相当する頭径をもつものは、今までに調査されている 200 以上の地方型のうち、前述の秋田県花輪、山形県飛鳥、富山県五ヶ山郷、奥能登以外では 15 の町村があるだけで、これらの町村はすべて裏日本の島または海岸部にあり、表日本では九州、四国の南端に局限されている。

阪大の小浜教授は裏日本各地、北九州の離島は頭長の大きい、頭幅の小さい中頭群であつて、これは近畿を中心とする短頭群より古い型であると考えている。しかし、私の佐渡における調査の結果、その中頭群のさらに外側に、頭の大きい短頭群が中頭群と混在しているように思われる。裏日本の島や海岸部に散らばるこの短頭群がどのような関係にあるかは現在のところわからない。ただ極めて大胆に憶測するならば、対馬海流による人の流れが、九州沿岸、対馬、能登、佐渡、飛鳥を結びつけていると考えられる。

3. 新潟県及びその周辺にある我国 僧侶のミイラに就て

新潟大学医学部解剖学教室
小 片 保

3. Mummies of Buddhist Priests Found in Niigata Prefecture and its Circumstances.

Tamotsu OGATA,
Dept of Anatomy, Niigata Univ., School of Med.

自然条件により成立する自然ミイラは我国各地に存在するが、早稲田大学安藤更生教授を委員長とするミイラ研究グループによつて、昭和34年以来、唐代の中国人僧侶のミイラを含めて約10体の男性即身仏が調査された。

これ等は出羽三山の内、湯殿山を中心とした真言宗系修験道の僧侶及び行者で、特殊な修業の後に所謂即身仏となつたものである。即身仏は、中世宗教学的にも重要であるが、比較的履歴の明確な中世及び近世日本人の資料としても、人類学的に極めて重要である。これ等の名称は一般にミイラとは言わず、即身即仏、即身仏又は肉身仏と言う。

我国では、平安末期の藤原四代のミイラが有名であるが、この成立時の加工、非加工の問題は未だ決定していないらしい。これより時代は少しく新しいが、多数の即身仏が蔵存していた事は注目に値する。多くは真言宗系の人達であるが、同系統の天台宗の人達も即身仏になつている。樺太アイノはミイラ作製を行つていた事は知られているが、北海道アイノにはそれが無い。中国では古く七朝時代より即身仏作製法を知つていた。

では何故に即身仏になるか、それには2つの大きな理由が考えられる。第1に、空海弘法大師が承和2年(835)に高野山に於て死して即身仏になつているという伝説がある。こ

れにあやかる為という。併し、弘法大師は火葬されているという記録がある。第2には、弥勒菩薩に対する信仰から来ており、この仏は56億7千万年の後に地上に出現し、釈迦の代りに衆生を救うという。その時迄、清浄な肉体を残しておこうという悲願から来ている。この理由から、即身仏には魂があるので、エジプトのミイラとは根本的に異つている。中国のそれは前述の如く、発生当時の即身仏の観念が失われ、現在では単なる信仰の対象となつてしまつているので、即身仏は、現在に於ては我国独特のものとなつた。

即身仏となる為には湯殿山仙人沢に於て、千日、2千日、3千日の参籠が必要で、この修業が終つて初めて即身仏となる事が許可される。この修業中は初め五穀を断ち、後に十穀を断ち、木の実、草の葉を食べて修業を続ける。その為に木食上人と言う。この為に全身の脂肪は失われ、次第にミイラになりやすい状態になつて来る。衰弱著しく、死期が近づくと遂に断食となり、伝説によると漆を1匁づつ毎日服用して身体を固めた人もいる。次に信者が土を掘り空間を作り、その中に修業者を入れ、竹で空気抜きを作る。中で死亡せるを確認して後に空気抜きを塞ぎ、3年後に発掘すると即身仏となつている。中には寺の本堂で即身仏となつたものもあり、これ等の

死亡する事を「入定」と言っている。死体未だ乾燥せざるものは乾燥処置が施される。又、特殊な場合には内臓を摘出せるもの1体あつた。これには防腐法として体腔内に石灰を充填せしものもある。斯の如く結跏趺坐の状態に整えて寺に置くのである。

この修業中不幸にして仙人沢に於て死亡せるもの多く、仙人沢にはこれ等の人達の墓石が累々としている。地中にあつて、未だ発掘されざるもの多く、行人塚の伝説を作り、これは各地に分布している。新潟県村上市の仏海上人は明治36年に死亡したのであるが、生前即身仏たらんと修業し、地中に入る時の石室、木棺及び空気抜きの竹を準備したのであるが、当局より禁止された為、信者これを衰れみ、これ等を用いて墓地を作つた。昭和36年研究グループによつて発掘が行われたが、長年月地中にあつた為一部ミイラ化していたが概ね腐敗していた。

新潟県には我国最古の即身仏が存在する。即ち、弘智法印で、貞治2年(1363)に入定した。彼は奥羽を行脚した時、或は藤原四代のミイラを見たのかも知れない。兎に角、我国に現存する即身仏最初の人で、それ以後の即身仏は彼を模倣したのかも知れない。又、新潟県の全海上人も古い方に属している。これを含めて、この外は江戸時代、明治時代のもので、前述の仏海上人は最も新しいものである。

唐代中国無際大師の即身仏はその製法が我国のものとは全く異り、乾漆法を施してある。即身仏は鼠害、虫害及び移転の際の破損強く、崩壊寸前のものもある。

石灰を充填した1体を除き、他のものは内臓を摘出した証拠は認められない。「レ」線写真によると頭蓋腔中は空虚である。尚、脊椎

の圧迫骨折が見られ、これ強度の後彎によつて生じたものである。下肢骨の強靱なるもの多く、生前激しき労働を思わせる。

原籍地は山形県4体、新潟県2体、千葉、神奈川、茨城の各県各1体づつである。前歴は僧籍のもの最も多く、中には農業、人夫、役乗り、城主の嫡男等あり一定せぬ。入定の年令は90才を越すものもあり、50才代のものもあり、後者に於ては脂肪未だ可成り残存している。

形質学的に見ると、頭蓋は中、短、長頭型ありて一定していない。Pearson氏身長推定値より見て、身長は余り短身ではなく、日本人男性平均値に近く、寧ろ長身なるものがある。体重は、石灰充填せる鉄龍海上人は15.0 kgであるが、他は殆ど骨の重量で、4.0~7.0 kgである。軟部よりABO式血液型を検出可能なるもの多く、軟部崩壊強きものからは検出不能であつた。鉄門海上人の生前の手型が現存しているが、即身仏より検出された手指皮膚理紋型と一致していた。

体腔内より蠅蛹の脱殻を検出した個体6体ある。然るに、全海、舜義両上人は1月、2月に入定せる事となつており、蠅繁殖の頃まで体腔内の軟部湿潤であつた事の証拠となる。これ入定年月日の伝説が誤りであつたのかも知れない。夏季入定せるものには可成り多くの脱殻を見る。就れにせよ、即身仏加工過程に於て、未だ軟部湿潤なる間に地上に放置された期間があり、これ極めて興味深い多くの問題を提起している。

この様に即身仏形成の流行をうながしたと思われる我国最古の即身仏弘智法印と、最後の仏海上人が新潟県に存在し、その他1体も現存している処から、新潟県は即身仏に関して特殊の地域と考えて差支えない。

シンポジウム討論

質 問 東邦大衛生 横 堀 栄

縄文期の津雲人の平均身長 159.9cm, 山口県土井ヶ浜の彌生時代の男性平均身長 162.8cm という調査があるが, 新潟県の古代人の身長を調査したものがあるか。

答 新潟大解剖 池田 次郎

新潟県の古い身長例は佐渡三宮貝塚人骨（縄文後期）から算定した 165cm で, 当時として高身長である。

土井ヶ浜人骨が高身長であるのは土井ヶ浜人（彌生式）が朝鮮からの移住者のためと考えられる。

質 問 弘前大衛生 佐々木直亮

頭の形の数値取りあつかいの統計的処理についてうかがいたい。

答 新潟大解剖 池田 次郎

標準偏差その他を算出して比較している。一つの集団は 100 例以上つかうのが普通である。

質 問 順天堂大解剖 棒 宏 治

佐渡と越後の文化は少しちがいが、佐渡は能登に、越後は信州などにつらなるといわれる。しかし、それと、佐渡人一越後人の特徴の差の関連性をどの様に考えるか。二人の間でお話したい。

また中世以降中央の人が佐渡に流されてきたが、それらの人々の影響はみられたか。

答 新潟大解剖 池田 次郎

文化的（考古学、言語学上）に佐渡は能登、近畿に近似するが、体質からは佐渡人や、能登人は近畿とちがつている。このような文化と体質のくいちがいは、文化なるものの本質から考えて不自然ではない。人間が変わらなくても、文化が変わることもありうる。

答 法政大 中川 成夫

彌生時代位までの遺跡、遺物の所見からは佐渡は北陸的要素が越後より濃く思われる。これが形質人類学の結果と合うか否かは、常に討議されている。しかし資料不足の面から結論がでない。

質 問 久留米大衛生 安倍 弘毅

福岡県秋月町に 125 才で、生きすぎたといつて生きたまま葬られたということを聞いている。これはやはり即身仏の思想によるものか。

答 新潟大解剖 小 片 保

御質問の資料について不明な点が多いので明確な答ができないが、120 才を越えていた人との由、これは宗教関係がなくても自然ミイラとなりうる可能性があるのでないか。